

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】令和3年2月12日(2021.2.12)

【公表番号】特表2020-514341(P2020-514341A)

【公表日】令和2年5月21日(2020.5.21)

【年通号数】公開・登録公報2020-020

【出願番号】特願2019-549365(P2019-549365)

【国際特許分類】

C 0 7 D	487/04	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/22	(2006.01)
A 6 1 P	25/24	(2006.01)
A 6 1 P	25/18	(2006.01)
A 6 1 P	25/28	(2006.01)
A 6 1 P	25/08	(2006.01)
A 6 1 P	21/02	(2006.01)
A 6 1 P	25/04	(2006.01)
A 6 1 P	29/00	(2006.01)
A 6 1 P	19/02	(2006.01)
A 6 1 P	25/30	(2006.01)
A 6 1 P	25/32	(2006.01)
A 6 1 P	25/34	(2006.01)
A 6 1 P	25/36	(2006.01)
A 6 1 P	3/04	(2006.01)
A 6 1 P	11/06	(2006.01)
A 6 1 P	11/14	(2006.01)
A 6 1 P	13/00	(2006.01)
A 6 1 P	1/00	(2006.01)
A 6 1 P	1/04	(2006.01)
A 6 1 K	31/519	(2006.01)

【F I】

C 0 7 D	487/04	1 4 2
C 0 7 D	487/04	C S P
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 P	43/00	1 2 1
A 6 1 P	43/00	1 1 1
A 6 1 P	25/00	
A 6 1 P	25/22	
A 6 1 P	25/24	
A 6 1 P	25/18	
A 6 1 P	25/28	
A 6 1 P	25/08	
A 6 1 P	21/02	
A 6 1 P	25/04	
A 6 1 P	29/00	
A 6 1 P	19/02	
A 6 1 P	25/30	

A 6 1 P	25/32
A 6 1 P	25/34
A 6 1 P	25/36
A 6 1 P	3/04
A 6 1 P	11/06
A 6 1 P	11/14
A 6 1 P	13/00
A 6 1 P	1/00
A 6 1 P	1/04
A 6 1 K	31/519

【手続補正書】

【提出日】令和2年12月22日(2020.12.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

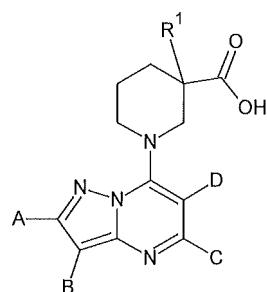
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

式(I)の化合物；

【化1】



[式中、

Aは、場合により置換されてもよいフェニル基またはピリジル基であり；

Bは、水素またはハロゲン原子、メチル基、シアノ基であり；

Cは、C_{1～6}アルキルであり；Dは、1個または複数個のハロゲン原子で場合により置換されてもよいC_{1～6}アルキル、C_{3～5}シクロアルキル；C_{3～5}シクロアルキルC_{1～6}アルキル、ジアルキルアミノ、C_{1～6}アルコキシ、C_{1～6}アルコキシC_{1～6}アルキル、C_{1～6}アルキルチオ基、テトラヒドロフラニル、テトラヒドロフラニルC_{1～6}アルキル、テトラヒドロピラニル、テトラヒドロピラニルC_{1～6}アルキルであり；またはCおよびDは一緒になって、置換されていないか、もしくは1個以上のC_{1～3}アルキル、C_{1～3}アルコキシ、ハロC_{1～3}アルキル、C_{1～3}アルキルカルボニルで置換されている3～7員飽和環を形成し、ここで、環員は、炭素、窒素、酸素および硫黄からなる群から選択され；R¹は、水素、ハロゲン原子またはC_{1～6}アルキル、ヒドロキシル、C_{1～6}アルコキシ、C_{1～6}アルコキシC_{1～6}アルキル、ハロC_{1～6}アルキル、アミノ基である]または、その薬学的に許容される塩、生物学的に活性な代謝産物、プロドラッグ、ラセミ体、エナンチオマー、ジアステレオマー、溶媒和物および水和物。

【請求項2】

CがC₁～₆アルキルであり、Dが1個または複数個のハロゲン原子で場合により置換されていてもよいC₁～₆アルキル、C₃～₅シクロアルキル；C₃～₅シクロアルキルC₁～₆アルキル、ジアルキルアミノ、C₁～₆アルコキシ、C₁～₆アルコキシC₁～₆アルキル、C₁～₆アルキルチオ基である、請求項1に記載の化合物。

【請求項3】

CおよびDが一緒になって、置換されていないか、または1個以上のC₁～₃アルキル、C₁～₃アルコキシ、ハロC₁～₃アルキル、C₁～₃アルキルカルボニルで置換されている3～7員飽和環を形成し、ここで、環員は炭素、窒素、酸素および硫黄からなる群から選択される、請求項1に記載の化合物。

【請求項4】

Cがメチルであり、DがイソプロピルまたはC₁～₆アルコキシC₁～₆アルキルである、請求項1に記載の化合物。

【請求項5】

以下の群：

(3S)-1-[2-(4-クロロフェニル)-5-メチル-6-(プロパン-2-イル)ピラゾロ[1,5-a]ピリミジン-7-イル]-3-エチルピペリジン-3-カルボン酸

(3S)-3-エチル-1-{2-[2-フルオロ-4-(トリフルオロメチル)フェニル]-5-メチル-6-(プロパン-2-イル)ピラゾロ[1,5-a]ピリミジン-7-イル}ピペリジン-3-カルボン酸

(3R)-3-エチル-1-{2-[2-フルオロ-4-(トリフルオロメチル)フェニル]-5-メチル-6-(プロパン-2-イル)ピラゾロ[1,5-a]ピリミジン-7-イル}ピペリジン-3-カルボン酸

(3S)-1-[2-(4-クロロフェニル)-5-メチル-6-(プロパン-2-イル)ピラゾロ[1,5-a]ピリミジン-7-イル]-3-(プロパン-2-イル)ピペリジン-3-カルボン酸

(3S)-1-[5-メチル-6-(プロパン-2-イル)-2-[4-(トリフルオロメチル)フェニル]ピラゾロ[1,5-a]ピリミジン-7-イル]-3-(プロパン-2-イル)ピペリジン-3-カルボン酸

(3R)-1-{2-[2-フルオロ-4-(トリフルオロメチル)フェニル]-5-メチル-6-(プロパン-2-イル)ピラゾロ[1,5-a]ピリミジン-7-イル}-3-(プロパン-2-イル)ピペリジン-3-カルボン酸

(3S)-3-メチル-1-[5-メチル-6-(プロパン-2-イル)-2-[4-(トリフルオロメチル)フェニル]ピラゾロ[1,5-a]ピリミジン-7-イル]ピペリジン-3-カルボン酸

(3S)-1-{2-[2-クロロ-4-(トリフルオロメチル)フェニル]-5-メチル-6-(プロパン-2-イル)ピラゾロ[1,5-a]ピリミジン-7-イル}-3-メチルピペリジン-3-カルボン酸

(3S)-3-エチル-1-{2-[3-フルオロ-4-(トリフルオロメチル)フェニル]-5-メチル-6-(プロパン-2-イル)ピラゾロ[1,5-a]ピリミジン-7-イル}ピペリジン-3-カルボン酸

(3S)-3-エチル-1-[3-フルオロ-5-メチル-6-(プロパン-2-イル)-2-[4-(トリフルオロメチル)フェニル]ピラゾロ[1,5-a]ピリミジン-7-イル]ピペリジン-3-カルボン酸

(3R)-1-[2-(4-クロロフェニル)-5-メチル-6-(プロパン-2-イル)ピラゾロ[1,5-a]ピリミジン-7-イル]-3-エチルピペリジン-3-カルボン酸

(3R)-1-[2-(4-クロロフェニル)-5-メチル-6-(プロパン-2-イル)ピラゾロ[1,5-a]ピリミジン-7-イル]-3-(プロパン-2-イル)ピペリジン-3-カルボン酸

(3R)-1-[5-メチル-6-(プロパン-2-イル)-2-[4-(トリフルオロメチル)フェニル]ピラゾロ[1,5-a]ピリミジン-7-イル]-3-(プロパン-2-イル)ピペリジン-3-カルボン酸

(3S)-1-[2-(2,4-ジクロロフェニル)-5-メチル-6-(プロパン-2-イル)ピラゾロ[1,5-a]ピリミジン-7-イル]-3-(プロパン-2-イル)ピペリジン-3-カルボン酸

(3R)-1-{2-[3-フルオロ-4-(トリフルオロメチル)フェニル]-5-メチル-6-(プロパン-2-イル)ピラゾロ[1,5-a]ピリミジン-7-イル}-3-(プロパン-2-イル)ピペリジン-3-カルボン酸

(3S)-1-[3-フルオロ-5-メチル-6-(プロパン-2-イル)-2-[4-(トリフルオロメチル)フェニル]ピラゾロ[1,5-a]ピリミジン-7-イル]-3-メチルピペリジン-3-カルボン酸

から選択される請求項1に記載の化合物。

【請求項6】

請求項1に記載の式(I)の化合物を調製する方法であって、

工程1) 式(II)のカルボン酸エステル誘導体または式(III)のカルボン酸塩化物誘導体：

【化2】



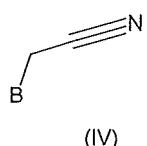
(II)

(III)

[式中、Aは、前記式(I)の化合物について上で定義したものを意味する]

を、式(IV)：

【化3】



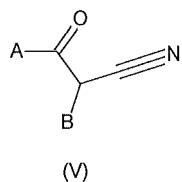
(IV)

[式中、Bは、前記式(I)の化合物について上で定義したものを意味する]

のアセトニトリル誘導体と反応させ、次いで、

工程2) こうして得られた式(V)：

【化4】

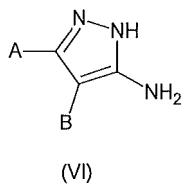


(V)

[式中、AおよびBは、前記式(I)の化合物について上で定義したものを意味する]

のアシルアセトニトリル誘導体をヒドラジン水和物と反応させて式(VI)：

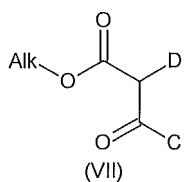
【化5】



[式中、AおよびBは、前記式(I)について上で定義したものを意味する]の化合物を提供し、次いで、

工程3) 前記式(VI)の化合物を、式(VII)：

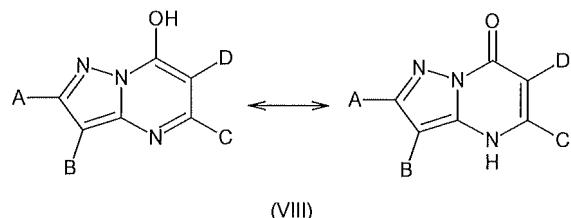
【化6】



[式中、CおよびDは、前記式(I)について上で定義したものを意味する]のアセト酢酸エステル誘導体と反応させ、次いで、

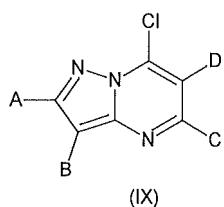
工程4) こうして得られた式(VIII)：

【化7】



[式中、A、B、CおよびDは、前記式(I)について上で定義したものを意味する]の化合物を塩素化して式(X)：

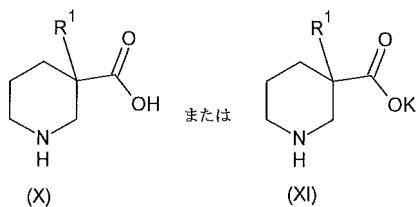
【化8】



[式中、A、B、CおよびDは、前記式(I)について上で定義したものを意味する]のクロロ誘導体を得て、後者を

4a) 式(X)のニペコチン酸誘導体または式(XI)のそのアルカリ金属塩：

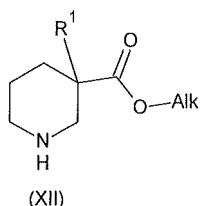
【化 9】



[式中、 R^1 は、前記式 (I) について上で定義したものを意味する]
 と反応させ、得られた前記式 (I) およびその光学対掌体またはラセミ体および / または
 塩を、所定の場合、新しい置換基の導入および / または既存の置換基の修飾または除去に
 よって式 (I) の他の化合物およびその光学対掌体またはラセミ体および / または塩に変
 換することができ、または

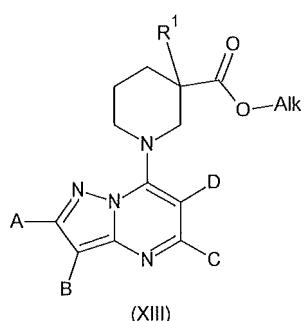
4 b) 式 (X I I) :

【化 1 0】



[式中、 R^{-1} は、前記式(I)について上で定義したものを意味する]のニペコチン酸エステル誘導体と反応させて式(XIII)：

【化 1 1】



[式中、 R^{-1} 、A、B、CおよびDは、前記式(I)について上で定義したものを意味する]

のエステル誘導体を提供し、最終的に後者を強塩基または強酸で鹹化し、得られた前記式(Ⅰ)のピラゾロ[1,5-a]ピリミジン誘導体およびその光学対掌体またはラセミ体および/または塩を、所定の場合、新しい置換基の導入および/または既存の置換基の修飾または除去によって式(Ⅰ)の他の化合物およびその光学対掌体またはラセミ体および/または塩に変換することができる特徴とする、方法。

【請求項 7】

有効成分として請求項 1 に記載の治療有効量の式（I）の化合物またはその薬学的に許容される塩、生物学的に活性な代謝産物、プロドラッグ、ラセミ体、エナンチオマー、ジアステレオマー、溶媒和物および水和物と薬学的に許容される担体とを含んでなる、医薬組成物。

【請求項 8】

請求項 1 に記載の治療有効量の式(Ⅰ)の化合物またはその薬学的に許容される塩、生

物学的に活性な代謝産物、プロドラッグ、ラセミ体、エナンチオマー、ジアステレオマー、溶媒和物および水和物と1つ以上の治療効果のある共薬剤とを含む、組み合わせ物。

【請求項9】

有効成分として請求項1に記載の治療有効量の式(I)の化合物またはその薬学的に許容される塩、生物学的に活性な代謝産物、プロドラッグ、ラセミ体、エナンチオマー、ジアステレオマー、溶媒和物および水和物と担体とを混合することを特徴とする、GABA_B受容体ポジティブアロステリックモジュレーター効果を有する医薬組成物の製造方法。

【請求項10】

GABA_B受容体ポジティブアロステリックモジュレーターとして使用するための、請求項1に記載の式(I)の化合物またはその薬学的に許容される塩、生物学的に活性な代謝産物、プロドラッグ、ラセミ体、エナンチオマー、ジアステレオマー、溶媒和物および水和物。

【請求項11】

GABA_B受容体ポジティブアロステリックモジュレーター活性に関連する障害の治療または予防のための、請求項7に記載の医薬組成物。

【請求項12】

前記障害が、精神障害(不安、パニック障害、心的外傷後障害、うつ病、統合失調症など)、神経発達障害(自閉症スペクトラム障害、強迫性障害、脆弱X症候群など)、認知障害、てんかん、痙攣、骨格筋硬直、脊髄損傷、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、脳性麻痺、本態性振戦、疼痛(神経障害性疼痛、内臓痛、変形性関節症)、薬物乱用(コカイン、ニコチン、アルコール)、肥満、過食、喘息、咳、尿失禁、胃食道逆流症、一過性下部食道括約筋弛緩、過敏性腸症候群の群から選択される、請求項11に記載の医薬組成物。

【請求項13】

1つ以上の治療効果のある共薬剤とともに用いられる、請求項7、11または12に記載の医薬組成物。